# 天城の山荘

所在地：静岡県中伊豆町

用途：住宅

構造設計：花輪建築構造設計事務所

設備設計：総合設備計画

施工：沢田建設

敷地面積：934.7

建築面積：60.42

延べ床面積：75.07

構造規模：木造2階建

竣工：1985.1

このプロジェクトは、私たちの事務所の最初の建築プロジェクトであり、思いで深い作品である。この敷地の最大の魅力は、伊東市街地からその先の相模湾に浮かぶ初島の眺望であったが、地表面では周りの木立に閉ざされてしまう。道路レベルのまま斜面上に乗り出さなければならない。そこで、斜面にタワーを立て、道路レベルにプラットフォームを懸けるという構成をとり、そこを主室とした。単純な平面のなかに複雑性を持ち込む為に、南側（山側）と北側（海側）を壁／柱・梁というふうに形態的を対比的に扱った。出展模型は、タワーとプラットフォームと南北のふたつの対比を表現しようとして、南側半分を模型の台＝地形に埋めた。このテーマはその後の私の作品の基調になった。実物は木造で、できるだけシンプルになるように努力した。当時謀誌のインタビューに「糊の効いたＹシャツのような建築を作りたい」答えた。

敷地は伊豆伊東市の西南、伊豆半島の山岳部に入ったところで、大手不動産会社が開発する分譲別荘地の一角である。伊豆とは言え、このあたりは海抜○○ｍあり、冬には雪も降るから、避暑型の別荘地と言えよう。地形は北に開け、伊東市市街を見下ろし、その先には初島が浮いている。晴れた日には、熱海湾を見越し遠くに真鶴半島まで視界は伸び、抜群の眺望を楽しむことができる。景観工学を専攻する若き学者である友人のＹ氏はこの雄大な眺望を求められた。

敷地自体は北に下る谷の東向きの傾斜地であり、斜面自体の利用は難しい。立っているのがやっとという急傾斜である(約３０度)うえに平坦部分は２～３台駐車できる程度の広さが道路際にあるにすぎない。また眺望方向の隣接敷地には高い桧が茂っているため、斜面に沿って降りると樹木に囲まれてしまう。決して恵まれた条件とは言い難い。

眺望を生かすためには、道路の高さで斜面に水平に乗り出すしかない。これが計画の出発になっている。この水平の床に道路側から水廻り、食堂、居間、和室が一列に配され、この床を支える下階に寝室と浴室を収められている。水廻りの上には小さな屋根裏部屋を作り、大勢で泊まるときの寝室を兼ねた納戸になっている。また、特に玄関は設けず、北側のバルコニーがそのまま道路際の平坦地に伸び、アプローチを兼ね、リビングに直接入るようになっている。

この山荘が極めてシンプルな構成をもっている外的要因としてはローコストということと、険しい敷地の地形ということがある。同時に単純な形態に豊かな意味を持たせたいという私の意図もある。また、個人の住宅である以上住み手の夢や好みを包含してなおゆるぎない、枠組みの明晰さも必要であろうと思われる。Ｙ氏の希望は板貼りの内装、出窓を持った食堂、Ｌ字型のベンチ、屋根裏部屋、外が見える浴室、暖炉、ひろいバルコニーなどであった。

この山荘における枠組みとは、柱梁による開放的な領域(北側)、壁に囲まれた閉鎖的な領域(南側)、垂直的な塔性と水平的な床性、グリッド性と斜め性等である。構造はコンクリートの布基礎（一部独立基礎）の上に在来工法の軸組が載っている。地震のこともあるので花輪さんに構造計算をお願いした。コストを押さえる意味もあったが室内に包み込まれた感覚を持たせたかったので桁高さをなるべく低くし、そのかわり天井を屋根の形そのまま出した形にしている。屋根架構は鉄骨のトラスをワンウエーに並べ下弦材と垂直材だけを室内に露出している。また屋根は軽くありたかったので出来るだけ薄くするため、トラスの斜材と小母屋を両面から構造用合板で挟み込み、剛性の高い屋根板を形成するようにしている。ローコストに対応して設計上の考慮もしているが、我々の見積より更に値打ちにできたのは多分に施工者の努力に負うところが大きい。友人のＹ氏共々感謝している。